「医学洋書総合目録」に関するアンケート調査：結果報告

浅井 将 行*

(日本医学図書館協会出版委員会委員長)

昭和大学図書館

I. はじめに

平成12年11月末から12月上旬にかけて、日本医学図書館協会（以下、協会という）出版委員会（以下、委員会という）では、協会加盟館に対し、「医学洋書総合目録」に関するアンケート調査を実施した。その集計結果を報告する。

II. 調査の背景

本調査は、「現行医学雑誌所在目録」に関するアンケート調査¹⁾に続き、協会出版事業の見直しの一環として行った。

「医学洋書総合目録」は、そのデータの大部分を国立情報学研究所の総合目録データ（NACSIS-CAT）からの流用でまかなっている。その点、加盟館の作業的負担は全体としては大きくないが、一方ではデータ変換作業を主とする製作経費が高額であり、販売価格も高くならざるを得ない。加えて、現在の請負業者は従来の業者に比べかなり安価で契約していたが、そのための作業工程を維持できなくなったとのことで、今後の値上がりも避けられなくなった。

これを契機に、特に高額な点で批判が聞かれる

「医学洋書総合目録」について、ニーズと価格との折り合いをつけられるか、見直しが必要と判断された。

III. 調査の概要

1. 目的、設問

「医学洋書総合目録」について、おもに現在の使用状況と必要性、割当て制と価格に関する意識を確認することを目的とし、委員会で検討し、担当理事らの意見も入れて設問を構成した（表1）。

2. スケジュールおよび方法

配布：平成12年11月29日、回答期限：同12月11日。配布、回答ともファクシミリによった。

IV. 調査の結果

調査時点での加盟館111館中、101館から回答を得、全体の回収率は91.0%となった（表2）。

1. 使用頻度、必要性について（設問1～3）

回答があったうち、ほぼ3分の2の館が「医学洋書総合目録」を「使わない」としている（図1）。また、出版の必要性を「感じない」とする館もほぼ同数で（図2）、その出版意義を高めることを特に求めない意見も回答の半数に達している（図3）。

*Masayuki ASAI : 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8.
asaim@cc.showa-u.ac.jp

(2001年4月11日 受理)

表 1. アンケート設問

- (いずれかに○印をつけて下さい)
- 設問 1. 「医学洋書総合目録」の使用頻度について
 イ) 日常的に使っている ロ) ときどき～散発的に使う ハ) あまり～全く使わない
- 設問 2. 協会が同目録を現状の内容で出版する必要性を
 イ) 感じる ロ) 感じない ハ) どちらともいえない
- 設問 3. 同目録の出版意義を高めるための方策（何らかの付加価値をつけるなど）を検討すべきだと
 イ) 思う ロ) 思わない ハ) どちらともいえない
- 設問 4. 1999 年版と同様の内容、装丁で、価格の上昇が見込まれる場合、割当て制は
 イ) 現状支持～やむを得ない ロ) 縮小すべき ハ) 廃止すべき
- 設問 5. 1999 年版と同様の内容、装丁で、現在の冊数で割当て制を継続する場合、適正単価（加盟館価格）は
 イ) 現状程度 ロ) 30,000 円以下 ハ) 20,000 円以下 ニ) 10,000 円以下
 ホ) どんなに安価でも容認し難い
- 設問 6. 1999 年版と同様の内容、装丁で、割当て制を廃止した場合、購入を
 イ) する（ 部くらい） ロ) 価格による（ 円くらいならば 部くらい） ハ) しない
- 設問 7. その他ご意見、ご要望をお書き下さい。書ききれない場合、別紙（書式自由）にてお願い致します。

表 2. 回収率

	加盟館数	回答あり	回答なし	回収率
国立大	37	36	1	97.3%
公立大	11	10	1	90.9%
私立大	46	40	6	87.0%
病 院	5	4	1	80.0%
他	12	11	1	91.7%
計	111	101	10	91.0%

図 1. (設問 1) 使用頻度について

(その他: 古いものは時々使うが、最近のものはほとんど使わない(公大 1))

なお各設問について、コメント付きなどの回答の場合「その他」として集計し、その内容も付記した。

図 2. (設問 2) 現状の内容で出版する必要性を

図 3. (設問 3) 出版意義を高めるための方策を検討すべきだと

2. 割当て制、価格について (設問 4, 5)

価格の上昇が見込まれる場合、割当て制は「廃止すべき」とする意見が過半数を占めた (図 4)。

図4. (設問4) 価格の上昇が見込まれる場合
割当て制は

逆に割当て制維持の場合の適正価格を問うと意見が分かれたが、「1万円以下」とする意見が最も多かった(図5)。

3. 割当て制廃止の場合の購入の意向(設問6)

割当て制を廃止して刊行を継続することが方策として可能かの判断材料として調べた。

割当てがなくなれば価格の如何を問わず、過半数が「購入しない」と回答した(図6)。「購入する」とした館も3分の1ほどあったが、その大半が購入部数は「1部(くらい)」としている(図7)。また、「価格による」とした館の約半数が、適正価格・必要部数を「1万円・1部(くらい)」としている(図8)。

図6. (設問6) 割当て制を廃止した場合購入を
(その他: 無回答(国大1), 回答できない(私大1))

図7. (設問6-1) 購入「する」部数(部くらい)

4. その他の意見(設問7)

転記できない長文のものも多いため、触れられている趣旨を全て抽出、分類して延べ数で計上し(表3), 原文の掲載は割愛した。

データの大半がNACSIS-CATとの重複部分であるという観点から、Webcatが使える現在「医

図5. (設問5) 割当て制を継続する場合適正単価(加盟館価格)は

(その他: 無回答(国大2), コメントのみ記載-「意見」で集計(国大1), 回答できない(私大1))

図8. (設問6-ロ)「価格による」内訳 (円くらいならば 部くらい)
(その他：無回答(私大1), 基本的に1部くらい購入の意向だが価格による(他1))

表3. (設問7) その他の意見

	国立大	公立大	私立大	病院・他	計
医学洋書総合目録の必要性に否定的					
NACSIS-CAT, 各館 OPAC など他のツールで充足している	8	2	6	2	18
NACSIS-CAT がない部分, 非接続館の所蔵について別の方策を検討すべき	3	1	3	1	8
古い年代のものしか使わない, 刊行継続の意義はなくなっている	1		2	1	4
現行医学雑誌所在目録ほどの必要性はない			1		1
出版委員会, 協会のマンパワーは別の出版物に使うべき				1	1
医学洋書総合目録の有用性を支持					
NACSIS-CAT 非接続館の所蔵を見るために補助的に使用, 有用性あり			4	1	5
価格に関して					
高価である, 価格に見合うメリットがない	2				2
価格は正の方策を検討すべき	1				1
割当て廃止や価格は正で採算が取れないならば刊行中止も	1		1		2
割当て制に関して					
割当て制は全面的に見直し～廃止すべき	6	1	1	1	9
必要のないものは購入できない	3				3
協会の財源確保は他の方法で	2				2
強制購入の根拠(会則等)不明	1				1
一般書店でも売れる企画を	1				1
その他					
累積版(5年, 10年など)の刊行を提案			2		2
消耗品扱いの所蔵書誌が NACSIS-CAT に表れないことの方が重要な問題	1				1
加盟館のうち NACSIS-CAT 非参加館がどの程度あるか知りたい		1			1
出版意義を高めるために CD-ROM 版, Web 版などについて検討してはどうか				1	1
出版意義を高めるための付加価値の具体案はあるのか?	1				1

学洋書総合目録」は必要でない, NACSIS-CAT 非
接続館についての方策を別途検討すべき, などと
する意見が多く見られた。

V. 考察および対応

調査の結果から,「医学洋書総合目録」は現状
では本質的にニーズが少なくなっていることを認
めざるを得ない。また, 予測されたことながら,

「医学洋書総合目録」の価格と割当て制とに対する批判が明らかに表れていて、有用性自体が完全には否定されない場合でも、妥当と見なされる販売価格は、採算を大きく割るレベルであった。

平成13年1月22日の委員会においてこれらのことについて検討した結果、「医学洋書総合目録」の刊行は大筋で支持されていないものと判断した。財源としての側面は多大であるが、その点にこそ批判が大きい。一方、編集・校正作業での委員会の負担も少なくない。そのため協会に対し、敢えて「医学洋書総合目録」の刊行中止も止むを得ないものと提案するに至った。

VI. おわりに

委員会の提案により、平成13年1月30日の協

会総務会において、「医学洋書総合目録」は刊行中止の方向で承認された。本稿掲載に先立ち、所定の手続きを経てその旨確定しているものと思われる。

実績ある「医学洋書総合目録」であり、関係者として心情的には刊行中止に寂しさも禁じ得ないが、そもそも実用性が求められるものなので、時代の趨勢に従うのは必然である。速やかに視点を転換し、NACSIS-CAT 非接続館に関する対応策の検討に入ることが重要である。

参考文献

- 1) 浅井将行. 「現行医学雑誌所在目録」に関するアンケート調査：結果報告. 医学図書館 2001;48(1): 95-9.